

大障教ニュース

第28回 ヒューマンウェブ集會に 450人が参加

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7 11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

カジノはやめて福祉にまわせ！ 私のことは私が決める！

12月7日、大阪城公園教育塔前広場で、第28回ヒューマンウェブ集會が開催され、障害当事者・家族・関係者450人が参加しました。集會前のオープニングでは、障害当事者の青年たちが、自分たちのおしゃべりを歌詞にした「お気に入りの場所」を披露し、その後、365日の紙飛行機「陽気に生きよう」の人生を「を会場の参加者と一緒に歌いました。

憲法が守り生かされる政治を

開会あいさつをかねて基調報告を行った大障教の山内副委員長（大阪の障害児教育をよくする会事務局長）は、8月に中央省庁などで障害者雇用率の水増しが発覚したが、障害者行政への信頼を根本からくつがえす裏切り行為でその責任は重大であると述べました。そして、安倍首相が執念をもやしている憲法改憲の本質について、9条に自衛隊を明記することは海外での武力行使に道を開くも

基調報告する山内副委員長



障害のある人の権利を守り、あ
カジノ/誘致をやめて福祉・医療・教育に
第28回ヒューマンウェブ集會

また、山内副委員長は、大阪府では福祉医療費助成制度が改悪され、障害児者やその家族のくらしに大きな影響を与えていると述べました。教育分野については、大阪府教育委員会は、府立支援学校の知的障害児童生徒数が、今後10年間に現在より1400人増加するとの推計を発表したが、その対応策として公表した「基本方針」では到底対応できない「などと訴えました。

会場からのリレートークに大きな拍手

リレートークでは、いつでもどこでも誰にでも「コミュニケーション」の保障を。手話言語条例をすべての市町村で制定を。大阪聴力障害者協会、「65歳以上の障害者等を対象とする老人医療費助成制度の廃止反対」大阪肢体障害者団体連絡協議会、「報酬改定のために作業所運営が厳しくなった。障害者の暮らしを守るためにみんなで力を合わせよう」という「きょうされん大阪支部」が、自分で考え自分で決めることを大事にした学びの

直接請願行動に各団体から16人が参加、 請願書は2066筆を提出

集會と並行して行われた「ヒューマンウェブ個人請願提出行動」には各団体の代表16人が参加しました。提出行動の参加者は府庁別館内に移動し、「ひとりずつ、カジノ誘致をやめて、福祉・医療・教育に関する施策を充実してください。」との表題の請願書を、大阪府の担当者へ手渡しました。参加者からは、「生活できるよつと年金を増やしてください」「カジノは辞めてもつと福祉にお金を回してください」「子どもたちが安心して学べるよう支援学校を建ててください」などの切実な声が出されました。

みんなの願いをドラムのリズムにのせて

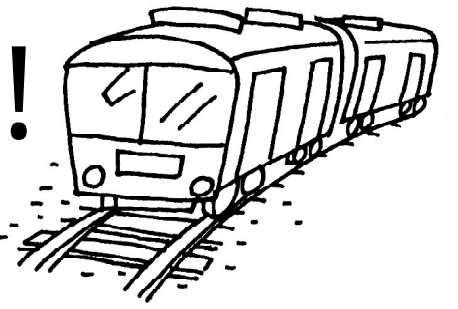
集会后参加者は、「みんなのくらしと権利を守れ！」「私のことは私が決める！」「カジノはやめて福祉にまわせ！」「なご、みんなの願いをドラムのリズムに合わせて府民に訴え



改憲に執念を燃やす安倍首相は、国会議員の責任を、共に果たして「こつ」などと述べ、「憲法9条に自衛隊を書き込む」という自民党案を何としても今の国会に提示しようとしています。

しかし、改憲反対の世論と、野党の結束した抵抗の前に、12月6日の衆議院憲法審査会の開催を断念せざるを得なくなりました。この審査会は、今国会の会期中最後の定例日だったため、自民党案の提示は事実上不可能となったわけですが、今の国会で自民党案を示しておき、次の国会で改憲を決議して国民投票に持ち込み、2020年には改憲の施行を狙っていた安倍首相のもくろみは、大きく狂うこととなりました。2015年9月、安倍内閣は、6割を超える国民の反対を押し切り、日本国憲法に真っ向から背く安保法制を成立させました。その上、力づくで9条の改憲を進めようとしたため、安倍首相に憲法を語る資格はない」と強い反発が広がっていました。自民党内からも、与党だけで改憲論議をしても失敗する。先の見通しもない」と危惧する声が広がり、連立与野党の公明党からは、野党も出席する環境で議論を進めることが大切だ」との声があがりました。最近の世論調査では、今国会での自民党の改憲案提示に「反対」が47%、「読売」11月26日付「改憲そのものを急いで進める必要はない」は50%（NHK11月12日放送）に達しました。そもそも国民が望んでいない憲法9条の改憲強行は、憲法の大原則である立憲主義の破壊です。引き続き、「9条守れ」の声を上げ、改憲そのものをやめさせる運動が重要です。

列車に乗って旅をしたい！ 第34回「大阪ひまわり号」に参加して



鉄道ファンには見逃せない運行経路

「列車に乗って旅をしたい」という障害者の切実な願いを実現させようと、1982年に多くの困難を乗り越えて専用列車を走らせたのが「ひまわり号運動」の始まりでした。10月21日、今年34回目となる「大阪ひまわり号」に参加してきました。

近鉄電車・あおぞら号

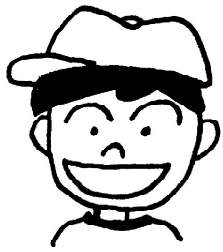


昨年度のひまわり号は、台風の接近・上陸のために2月の寒い時期の実施となりましたが、今年秋晴れの絶好の天候となりました。21日当日の8時42分176名を乗せた近鉄電車・あおぞら号は上本町駅を出発して近鉄京都駅に向かいました。今回の目的地は京都鉄道博物館。普通なら西大寺での乗り換えとなるのですが、専用列車ということで橿原神宮前

車掌さんになりました！



駅まで行って折り返し、近鉄京都駅に行くという普段は運行しない経路で、鉄道ファンには見逃せないものでした。途中、恒例となっている「走れ！ひまわり号俺たちのシルクロード」の歌声が車内に響き、参加者が車掌さんに扮して行う「切符切り」の企画も好評でした。



客車の中での昼食



京都鉄道博物館

京都鉄道博物館では昼食のお弁当が配られ、班ごとの行動となりました。私のグループには鉄道マニアの卒業生がいて、穴場の客車を利用した休憩所に案内してくれました。客車で食べるお弁当の味は格別で旅気分を味わうことができました。昼食後は、本物の蒸気機関車に乗りたり、たくさんのお土産をのり当たりに見たり、鉄道模型の展示を見たり、あつという間の3時間でした。また、出口にあるお土産物屋さんで、ゆつくりお土産などの買い物を楽しんでいる人たちもいました。お土産物屋さんをのぞいて自由に買い物をするのも、ひまわり号参加者の楽しみの一つとなっています。皆

さん自由時間を有意義に過ごせたようです。

昨年引き続き参加した「ひまわり号」でしたが、今回は、勤務している支援学校の卒業生との再会も楽しみの一つでした。穴場も知っていたその卒業生は鉄道が大好きで、昨年度に引き続きの参加でした。来年も必ず来るとのことです。リピーターが増えるのは嬉しいことです。

障害者が自由に利用できる交通の整備を

今年も「青年当事者の会」などの若い人たちが、実行委員会に参加し、当日のボランティアも担っていたおかげで、スムーズな運営ができました。「ひまわり号憲章」には、「『ひまわり号』に集う仲間たちひとりひとりが主人公となり、ロマン、ドラマに満ちた旅を満喫しあおう。すべての障害者が自らの力で安全に、そして自由に利用できる駅づくり、ターミナルづくり、交通体系の是正と整備を促進させよう」と記されています。こうした趣旨に基づき、参加者への配布資料の中には「支援学校建設」の署名用紙が同封され、実行委員長より署名の訴えも行われました。
(障対部・鶴岡敬三)

各地で街頭署名宣伝、がんばっています！！



上新庄駅前での署名活動

11月18日、堺・泉北ブロックの分会が南海堺東駅前2回目の宣伝行動をおこないました。駅前では、聴覚障害者の団体が大規模な署名宣伝行動をされていましたが、「いっしょにやりましょう」と声をかけてくださり、お互いの署名をして交換、市民からの署名と合わせて77筆あつまりました。また、署名用紙を預かっていただき、後日69筆埋まった用紙が届けられました。

11月22日には、北視覚支援分会と東淀川支援分会が阪急上新庄駅前署名宣伝にとり組み、執行部と合わせて11人が参加。「障害のある子どもたちが安心して通える支援学校の建設を求めて府議会に署名を届けます。ご協力をお願いします」と元気に訴えると、信号待ちの方や引き返して署名する方など、短時間で76筆あつまりました。また、「がんばってください」とカンパもいただきました。

12月1日には、枚方支援学校分会と四條畷校分会そして「北河内の障害児教育を発展させる会」が合同で3回目の宣伝行動を行いました。